

未成年『模擬』衆議院議員総選挙2012 実施報告 (速報版) 2012・12・21



模擬選挙推進ネットワーク

<http://www.mogisenkyo.com>

目次

- ・実施概要 3P
- ・学校リスト 4P
- ・集計概要 5P
- ・投票結果 6P

- ・未来の有権者の投票理由、感想(抜粋) 7P
- ・模擬選挙に取り組まれた先生方からの感想 9P

- ・今回の特徴 12P
- ・総括、今後の課題 13P

- ・海外の模擬選挙 14P
- ・若年層の投票率 15P
- ・年代別有権者と投票者の割合 16P
- ・中立を守るために 17P
- ・模擬選挙応援団 18P
- ・模擬選挙推進ネットワークとは 20P



実施概要

実施時期(投票受付期間)

- 2012年12月5日(水)午前8時30分から
12月16日(日)午後8時まで

対象

- 2012年12月16日現在19歳以下の方

投票方法

- 学校：全国から29校が参加
内訳＝小学校：1校 中学校：9校
高等学校：18校 大学：1校
※中高一貫校など「中等部・高等部」がある学校
は、中等部、高等部別に計算

○過去の国政選挙の実施学校数

総選挙(2003年)実施校＝7校
参院選(2004年)実施校＝21校
総選挙(2005年)実施校＝42校
参院選(2007年)実施校＝40校
総選挙(2009年)実施校＝20校
参院選(2010年)実施校＝22校

- 地域での投票
民設民営の児童館で模擬選挙を実施
- Webでの投票
Web：Webで全国から投票を受付



模擬選挙に取り組んだ学校

《学校名の公表が可能な学校》

*北海道

札幌龍谷学園高等学校

*千葉県

芝浦工大柏中学校

芝浦工大柏高等学校

千葉県立鎌ヶ谷高等学校

*埼玉県

自由の森学園高等部

*東京都

八王子市立上柚木中学校

駒場東邦中学校

駒場東邦高等学校

本郷学園中学校

本郷学園高等学校

玉川学園小学部

玉川学園中等部

玉川学園高等部

都立戸山高等学校

*長野県

長野県立北部高等学校

長野県立赤穂高等学校

長野県立田川高等学校

上田西高等学校

*三重県

三重県立桑名西高等学校

*京都府

立命館宇治中学校

立命館宇治高等学校



集計概要

比例区の投票総数 6075票

- 総選挙(2003年)=2145票 ○参院選(2004年)=4826票
- 総選挙(2005年)=6745票 ○参院選(2007年)=8212票
- 総選挙(2009年)=4629票 ○参院選(2010年)=6052票

比例区の有効投票数 5721票

(20歳以上の投票、白紙投票などを除外した票数)

有効投票における投票方法別の票数

- 学 校：5759票
- 地 域： 42票
- Web： 277票

有効投票における、投票者の年齢・学年(明確に分かる人数)

- 小学生：17名 • 中学生：1948名 • 高校生：2434名
- 大学生：138名 • 年齢不明：1538名 • 最年少：2歳

有効投票における、投票者の主な居住地(都道府県)

- 北海道から佐賀県までの27都道府県から投票
- 東京都(2367名)、千葉県(1215名)、長野県(763名)、北海道(569名)、京都府(318名)、神奈川県(165名)、埼玉県(154名)、三重県(153名)

集計方法

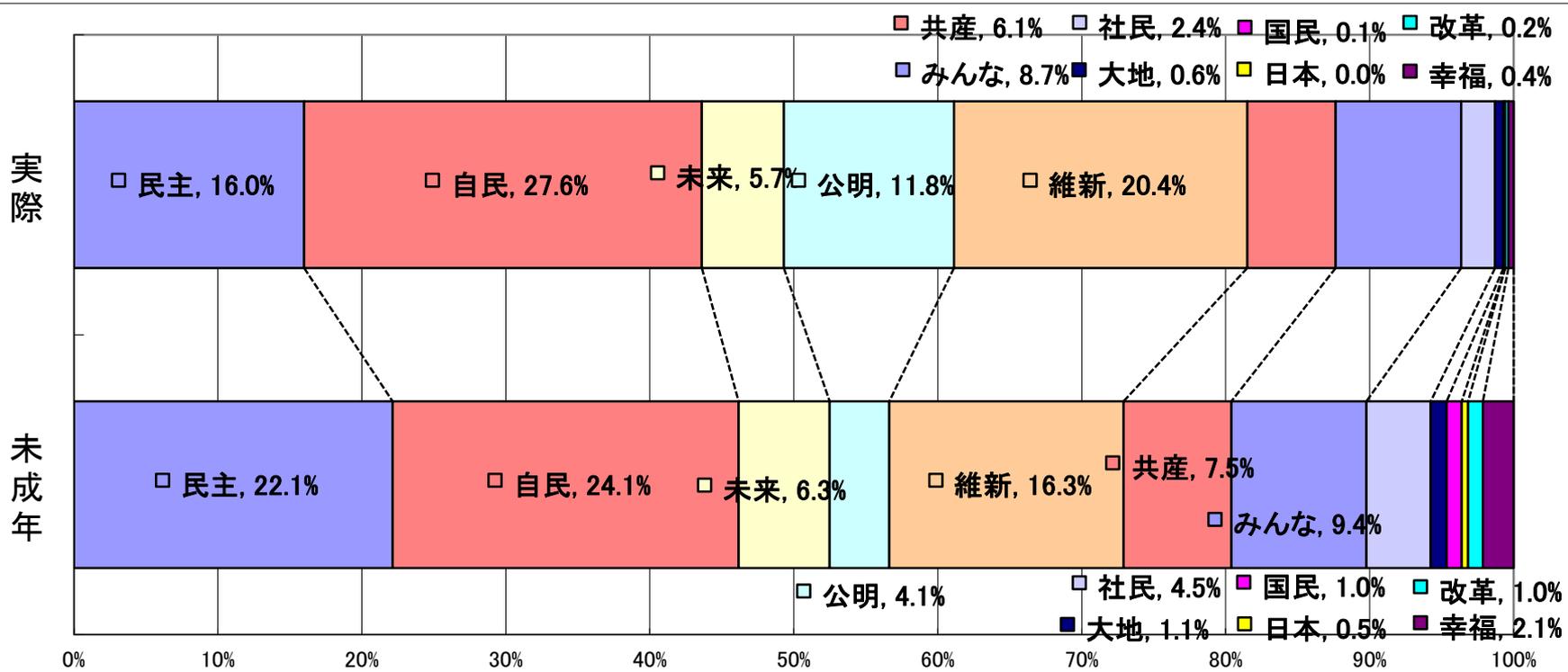
比例区の投票を、全て政党名に置き換えて集計

※実際の選挙結果との比較においては、実際の選挙の比例区(全国11ブロック)の投票数を合算して比較をしているため、実際の議席数と異なる



投票結果

民主22.1%(実際は18.0%/以下同)、自民24.1%(27.6%)、維新16.3%(20.4%) など



比例区の投票を全国集計し、実際の選挙結果との比較においては、実際の選挙の比例区(全国11ブロック)の投票数を合算したものと比較
 新党日本は比例区には候補者を立ててないが参考値として掲載

	民主	自民	未来	公明	維新	共産	みんな	社民	大地	国民	日本	改革	幸福	小計
実際	9,628,653	16,624,457	3,423,915	7,116,474	12,262,228	3,689,159	5,245,586	1,420,790	346,848	70,847	0	134,781	216,150	60,179,888
実際割合	16.0%	27.6%	5.7%	11.8%	20.4%	6.1%	8.7%	2.4%	0.6%	0.1%	0.0%	0.2%	0.4%	100.0%
未成年	1,266	1,376	361	237	931	429	536	256	63	60	26	58	122	5,721
未成年割合	22.1%	24.1%	6.3%	4.1%	16.3%	7.5%	9.4%	4.5%	1.1%	1.0%	0.5%	1.0%	2.1%	100.0%
差	6.1%	-3.6%	0.6%	-7.7%	-4.1%	1.4%	0.7%	2.1%	0.5%	0.9%	0.5%	0.8%	1.8%	

未来の有権者の投票理由、感想(抜粋) 1

※誤字・脱字もそのまま掲載

- ・実際に行うことができない投票を今回「模擬」ですが体験することができて本当によかったです。また国民の選挙に対する関心が薄いこともわかりました。20歳になったら絶対に投票に行きます。(中1)
- ・私は今回の実際の選挙で自民党が圧勝して正直言ってショックでした。とにかく私は国防軍に対して反対でした。私たちの票もその気持ちの表れだと思います。これからの自公政権がとても怖く思います。(中1)
- ・重要政策(マニフェスト・アジェンダなど)が非常にわかりにくいと思った。例えば、若者用にもう少しわかりやすいものをつくって配布すれば、若者の投票率も上がるのではないかと思う。
- ・私たちは各党の重点政策を分析してよく考えて模擬投票をしました。その結果、民主党にもう一度チャンスを与えたいという票が一番でした。それが実際の選挙では自民党になった。大人は何を一番のポイントとして投票したのだろうか。大人は私たちほど調べていないのではないだろうか。私は20歳になったら、次の世代に迷惑をかけないという気持ちで投票所に行きたいと思う。(中1)
- ・本当の選挙のようで少し緊張した。こういう体験は良いと思う(これが機会で、候補者の話を聞いたりした)。(中1)
- ・選挙にふれられる良い機会になった。次回も参加したい。(中1)
- ・そこまで面倒でもない。なぜ投票に行かないのかがわからない。(中1)
- ・(自民党は)元の日本に戻そうとしていて、元の日本みたいに平和になればいいと思うから(中2)
- ・民主党が政権を担って様々な政策をとってきたがあまり成功といえるものはなかった。しかし、数年で結果がでるものではないと思うので、長い目で見守りたい。もう一度日本を担ってほしい。(中2)
- ・原発に代わる発電方法を考えてほしいです。(中2)
- ・(維新の会の)小中学校の留年制度は日本の学力が低下しないためにいいと思う。(中2)
- ・(新党大地は)北海道だけの政党なので、北海道をもっとアピールしてほしいから。(中2)
- ・本物の選挙もこんな感じだと今から体験をしておく、あとでいい経験になると思います。(中2)
- ・日本の未来を決める大事な選挙のうちの一票を大人になったらすることになるので、今から政治のことを知って考えていきたいです。(中2)
- ・(みんなの党は)自分達の給料をまず減らすと言っていて、それほど覚悟があるから。(中3)
- ・この一票が今後の生活に関わるとするならば、無知では一票は入れられないなと思いました。(中3)
- ・この一票が世論への一票であり、いつか選挙を受けられたら行ってみたいと思います。(中3)
- ・(自民党は)一番組織として確立していると思ったから。(中3)
- ・20歳になって選挙権が与えられたら必ず投票に行きたいです。(中3)
- ・今回この投票をするにあたって、TVや新聞などで色々な党の公約を見ていく間に、政治に興味が出てきました。(自民党は)是非私たちの生活をよりよいものに変えてくれる党になってほしいです。(中3)

未来の有権者の投票理由、感想(抜粋) 2

※誤字・脱字もそのまま掲載

- ・たんと進むものだなあと思いました。3回も投票するのはおっくうですね。投票したくなくなるのもわかります。(高1)
- ・なんとなく居づらい雰囲気であり選挙したくないと思った(高1)
- ・投票者、選管どちらもやってみたが、規模は違えど面白かった。しかし投票のために家を出るのが面倒くさいという気持ちはわからなくもない。(高1)
- ・1つの党を選ぶのが難しかった(自分と全て一致する政党なし、政党多すぎる)(高2)
- ・子供の意見に意味はない(高2)
- ・投票しない人の気持ちが分かった(高2)
- ・今回とても選挙に参加したいと思っていたので、とても有意義でした。これからは若者の投票が非常に重要であると思うので、若いうちから国政への興味を持ち、「自分は選挙権がないから…」といった無関心な人が増えることがなくなってほしい。(高3)
- ・少し調べるといろいろ分かってきた(自民の憲法案のひどさとか)。若者が感心を持つことは大事だと思う。(高3)
- ・「名前を書く」という行為が案外重いものだと感じました。(高3)
- ・数年後、自分が選挙権をもった際に備えての経験ができたことは良いと思う。(高3)
- ・今までは国政には全く関係がない年齢だと思って無関心だったが、あと数年で自分も選挙権を持つことを実感したので、これからは選挙への関心を深めたいと思った。(高3)
- ・今まで政治は難しいのでほとんど関心がなかったが、模擬投票をやるということで関心が持て、テレビのニュース番組や開票速報なども見るようになった(高3女子)
- ・3年前の回目の模擬選挙の時は、その時も悩んだけど、適当に選んではいけないと思った。3年前とは違う政党に投票した。その時は、自分で考えるというよりも周りに流されていた。今回は自分で考え、「政党」よりも「党首」やマニフェスト、どっちのほうか公約を守るのかを考えて投票した。新聞を読んだり、お父さんとテレビをみながら選挙について話したりもした。投票権をもったら投票に行く。(高3女子)
- ・3年前の模擬選挙の時は名前とか第一印象で投票していた。今回は細かいことを見て選んだ。若者の投票率が低いと言われているが、日頃からこうした活動をしていると選挙が身近に感じて、選挙に行かないということにならないと思う(高3男子)
- ・実際の選挙になったらぜひ投票したい(高3男子)
- ・今回の実際の選挙の投票率の低さを「残念に思う」(高3/多数あり)
- ・模擬投票では民主党が比較第一党となったが、理由については「高校授業料無償」「子ども手当」などの政策を評価している、東日本大震災があつて災難だった、すぐ見限るのではなく、もう少し時間をかけてやらせてみたい。野田首相を貴人的に評価する、やめるのはもったいない。などが挙げられる(高3)
- ・(模擬選挙実施後に、実際の結果と比較した学校の生徒から)模擬投票の結果(民主党勝利)と実際の総選挙の結果(自民圧勝)の差は、若者(高校生)が政治に求める観点と大人が求める観点が違う。大人は景気対策など今のことを問題にしているが、若者は原発のことなど未来のことを考えていると思う。ということは高校生に参政権があり、若者の投票率が高ければ選挙結果はかなり違ってきたのではないか(高3男子)

模擬選挙に取り組まれた先生方からの感想 1

<札幌龍谷学園高等学校・櫻田 典子教諭>

今回は、自分の考えを政治に反映させるという観点で、政党公約を読み比べさせ、自分の考えに合う内容と、合わない内容とに分類させた。その上で、自分の一票をどの政党に投じるのか、を判断させた。新政党が乱立し、選挙の争点もわかりにくいなかで、生徒達はそれぞれ真剣に政党公約を読み比べ、自分なりの意見をしっかりと持ち投票に臨んでいた姿が非常に印象的だった。

<長野県北部高等学校・近藤 正教諭>

生徒が具体的な課題について真剣に考えようとしていることに感動した。

但し、政治経済的な基礎知識が少ないため、深く考えることはまだまだ難しいのも現実であり、社会科という教科の責任を痛感した。

今回は比例代表のみの投票としたが、政党数が多すぎて、判断に悩む生徒が多かった。これは有権者も同様の問題を生じたことでもあり、雨後の竹の子のような政党乱立状況は問題があると感じた。

地元選挙管理委員会の協力を得られ、本物の投票箱、記載台を使っでの投票は、リアルで生徒たちも緊張感を持って取り組めてありがたかった。

<長野県田川高等学校・有賀久雄教諭、古林阿沙子教諭>

政党ごとの政策比較など、事前学習の時間が実際にはあまり取れなかった。最高裁裁判官国民審査も公報を配っただけで投票となってしまった。しかし生徒は短い時間の中で、一生懸命考え、投票していた。

たまたまかもしれないが、文系の講座(5クラス)と理系の講座(2クラス)とでは全く投票結果が違っていた。文系講座では維新の会をはじめとする第三極に票が集まったのに対し、理系講座では民主党が多く、全体としても民主党が第一党となった。

学校が変わっても、3年前と比べても、生徒たちは高校生らしく、真摯に「1票の行使」に向き合っていた。

模擬選挙に取り組まれた先生方からの感想 2

＜神奈川県立平塚中等教育学校(1学年)・吉田直樹教諭＞

- ・各政党の重点政策(公約・マニフェストなど)を3時間(45分×3)かけて分析させ自分の意見をまとめさせた。
- ・4人で1チームを作り、候補者数上位8政党の重点政策とそれに対する自分たちの意見を3分以内で発表させた。
- ・中学1年生なので、重点政策に書かれている言葉を全て理解することは出来なかった。
- ・自民党の「国防軍」については反対の意見が多く、平和憲法の大切さを主張する生徒が多かった。未来の党の政策は、自分たちが親になったときのことをイメージすると、とても助かる政策だという意見が多かった。民主党については、もう1回政権をとらせるべきだという声が大きかった。維新・みんなを支持する生徒が多かったが、ディスカッションさせると、実現が難しい政策が多いという声も多かった。社民の支持は「平和憲法」維持の強い姿勢、共産の支持は「平等」を強く訴えている点が主だった。重点政策を読んでも、支持する政党が見つからないという生徒は白票を投じている。
- ・中学1年ではあるが政治に対する関心は非常に高く、来年度の参議院選挙も是非、模擬選挙に参加させていただきたい。

＜自由の森学園高校・菅間正道教諭＞

2回に分けて授業を行った。1回目は自由経済重視と所得の再分配重視、改憲と護憲のタテ軸・ヨコ軸で政策を説明。2回目は、模擬投票をした後に、18歳選挙権について議論をした。年内はこれで最後なので、次回の授業で結果を生徒に戻す予定。

＜芝浦工大柏中学高校・杉浦正和教頭＞

今年は定期考査があり、高三生は通常授業が終わり、中学生は合唱祭に向けた練習期間であり、等々の要因が重なって、教員の準備や生徒の取組もかなり厳しい状況であった。その中でも、感想を読む限り中学一年と二年は真面目に取り組んだ生徒が多々いたようである。中三生と高三生は行事や模試などが重なったといえ、参加数が少ないのが残念であった。

今回はいろいろな事情で、中学は受付の態勢をきちんととれないまま投票をしてもらった。中三生で数枚を一人で投票した形跡が見つかった。やはり、きちんと受付をすべきと改めてわかった。

模擬選挙に取り組まれた先生方からの感想 3

＜駒場東邦中学高等学校・井田佐恵子教諭＞

試験最終日で放課後1回のみ投票時間となったため、一斉に人が詰め掛け、会場の外までのびる長蛇の列となった。それを見て投票を断念し部活動等に行ってしまった生徒もいたようで、投票率は残念ながら前回は大幅に下回る結果となってしまった(前回は昼休みと放課後の2回。中学投票率61.9%)。

試験期間中にもかかわらず選挙区の候補者演説をすべて聞いてから投票に臨んだ者(選んだ基準に「街頭演説」をあげた者が多かったことには驚いた)、マニフェストを比較してきた者、家庭で議論した者、ポートマッチを複数試してきた者も多く、事前準備ができなかったという場合も投票所に選挙公報を持ち込み最後まで熟考していた者の姿もあり、生徒達の熱心さを非常に頼もしく感じた。選挙管理委員も有志を募ったところ、すぐに30名を超える生徒が名乗りをあげてくれた(これらの姿を目にしたら、選挙権年齢引き下げの議論もより熱を帯びてくるのではないか)。「参加することで関心を持つ、気づく、考える、伝えたい」という模擬選挙の効果が十分に感じられる機会となった。感想も、初めて「選挙」に参加した中1のコメント、近々実際の一票を投じることになる高3のコメントのどちらも味わい深く(?)、しっかりまとめて同世代の仲間の考えをぜひ年明けにでもみなで共有したいと考えている。

模擬選挙は、生徒が主体的にならざるを得ない(主体的になれなくてもその自覚や悔いは残る)活動である。その達成感や悔いが次の学びや行動へとつながる原動力となる。今回もその力を実感することができた。

＜立命館宇治中学高校・杉浦真理教諭＞

生徒が迷いながら投票しました。政治を学ぶとても良い機会でした

＜中学校教諭＞

模擬選挙の説明をする際、本校以外の全国の中学生もたくさん参加しているということや、自分たちの投じた1票が政治家の目に留まるということを話すとみんな真剣な表情に変わります。今回も生徒は真剣に考え取り組みました。家庭でも親と話し合ったり、テレビや送付されたマニフェスト等と呼んだりするなど、政治に対する関心が高くなったようです。中2の生徒にとっては、来年度学習する公民で政治について学びますが、今後も関心をもって政治関連のニュースを見てくれるだろうと期待しています。こういうことを積み重ねて、大人になっても政治に関心をもってほしいと期待しています。このような取り組みを進めていただいている皆様には感謝しています。今後もよろしくお願いします。

今回の特徴

1：選挙管理委員会、明るい選挙推進協会との連携

- これまでの模擬選挙に引き続き、各地の選挙管理委員会から、実際の選挙で使う投票箱や記載台の借用、選挙公報の提供などを受けた
- 選挙啓発キャラクター「めいすいくん」の着ぐるみも、学校まで出張してくれた
- 東京都選挙管理委員会、明るい選挙推進協会から後援を受けた

2：文部科学省、教育委員会が模擬選挙の現場を視察

- 「主権者教育」「シティズンシップ教育」の一つである模擬選挙の現場を、文部科学省および教育委員会(東京都教育委員会、八王子市教育委員会など)の職員が視察し、学校長や担当教諭などと意見交換を行った

3：新たに模擬選挙を実施する学校

- 公立学校を含め、新たに模擬選挙を実施する学校が複数あった

4：主要政党のマニフェストおよびポスターの入手

- 主要政党のマニフェストおよびポスター(比例区用)を入手し、希望のあった学校に対して届けた。

5：メディアからの注目

- これまで以上に、新聞社、テレビ局などからの取材があり、模擬選挙がメディアで取り上げられる機会が増えた
読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞、産経新聞、北海道新聞、信濃毎日新聞、長野新聞
NHK長野放送局、TBS

6：その他

- ウェブ投票においては、「Yahoo!みんなの政治」と連携した

総括、今後の課題

《総括》

1：投票内容に関して

- ・未成年者の判断能力の未熟さを懸念する声もあるが、実際の選挙結果と比較してもほぼ同様の結果が出ている。
- ・学校での模擬選挙の取り組みにおいては、各政党の政策の比較、マニフェストの読み比べ、ポर्टマッチなどを行うほか、生徒同士でのグループディスカッションなど、将来の有権者自身が主体的に考える機会を工夫していた
- ・普段は選挙や政治に関心のない未来の有権者も、模擬選挙を行うことを通じて、実際の選挙結果に興味・関心を抱くようになってきていることが、感想などから読み取れる。

2：実施について

- ・急な解散／総選挙ということ、時期が2学期末試験のシーズンに重なったことなどから、模擬選挙の実施を見送った学校が多数あった
- ・事業収入の全く無い活動のため、多くの方からの支援が不可欠である

《課題》

- 1：模擬選挙に対する理解や広がりを感じる一方で、管理職などからストップをかけられる場合もこれまで同様にあった
- 2：学校で模擬選挙を実施するのが難しい日程でも、より多くの未成年者に体験してもらえる実施方法の模索。
- 3：模擬選挙の拡大に対応できるだけの人手や資金、事務所、ホームページ、Web投票システムなどを確保する必要があるが、活動に収入が伴わないために困難な状況が続いている。
- 4：実施が拡大する中で模擬選挙を盛り上げるための資料やグッズをきちんと確保していくために、各政党や選挙管理委員会との連携、協働のあり方の検討が求められている。
- 5：模擬選挙を実施していることを未成年者に知ってもらうための広報手段。マスメディア等の協力を得ていく必要がある。

「模擬選挙」は、シティズンシップ教育として海外ではポピュラー

- ①国民の一人と実感し民主主義を体感
- ②賢い有権者を育てる ③投票率UP

2008年アメリカ大統領選挙→全米**700万人**が投票



2010年参議院議員選挙→未来の有権者**5673人**が投票

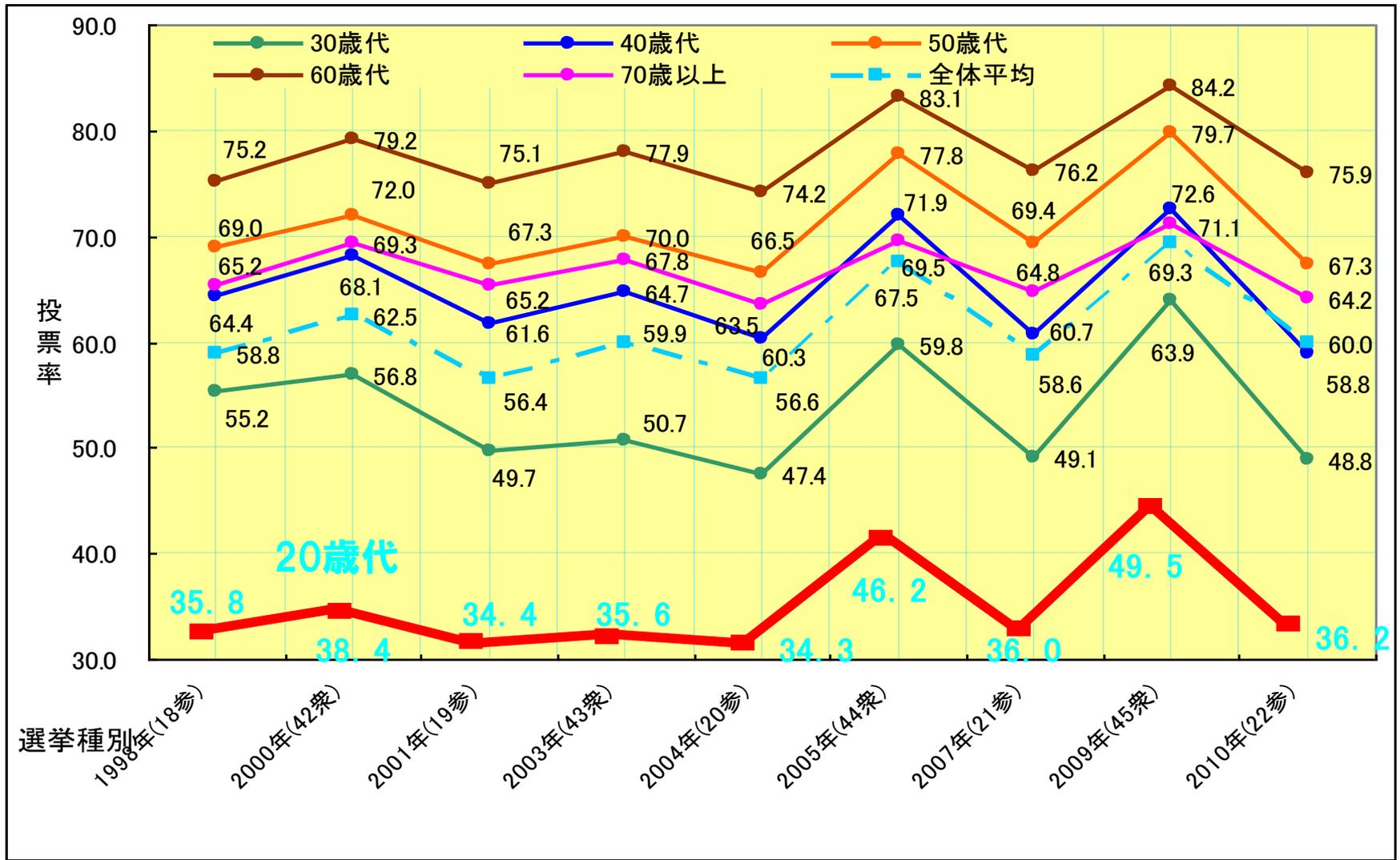


玉川学園中等部

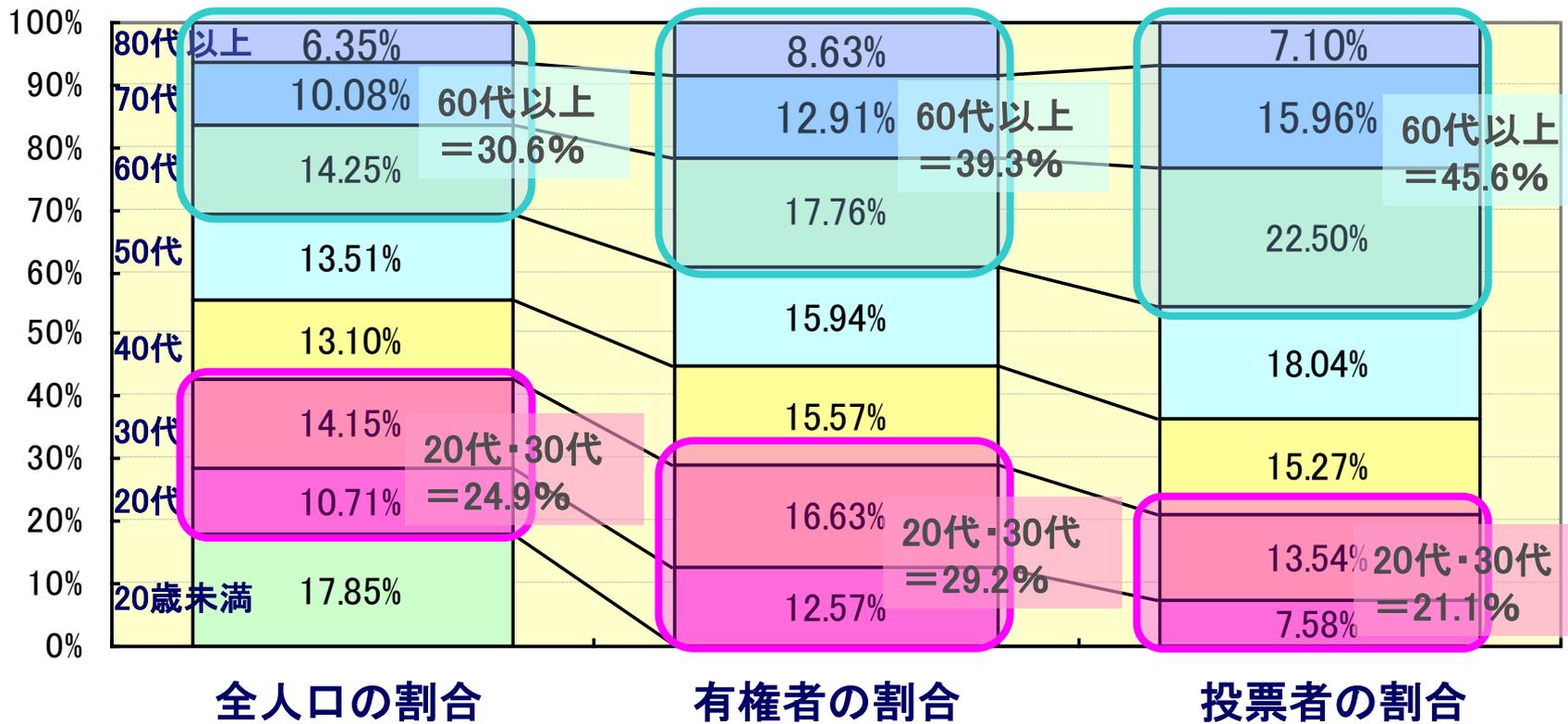
都立戸山高校

若年層の低投票率

未成年「模擬」衆議院議員総選挙2012



年代別の「有権者」と「投票者」の割合



2010年参院選時点/国勢調査及び明るい選挙推進協会データをもとに作成

少子高齢社会では、投票率以上に投票者数の差が生じる

若年層の投票率が上がっても高齢者の絶対数が若年層よりも多いため、若年層の声が反映されにくくなる

中立の立場を守るために～最大の注意点

(1)政治的中立と結果の選挙後公表

- ・特定の政党を支持、あるいは批判することを目的に模擬選挙を実施するのではなく、教育の一環として実施することを確認し、学校や団体内で事前に徹底してください。
- ・「模擬選挙実施による意義・目的」を確認してください。
- ・各政党の政策などを教師が説明する際は、公正・中立な立場で行ってください
 - ※政策に対して詳しくコメントする場合は、意味を説明するだけで評価的なコメントを避けてください。
 - また、模擬選挙実施後に説明を行う方が無難です。
 - ※マスコミ報道などを活用して、客観的で公平な資料を作成することをこころがけてください。
 - 例えば、模擬選挙の投票結果が野党寄りになったとしても、「マスコミが政権交代をあおっていたから」「与党批判の報道が目立ったから」などと説明できます。
- ・生徒がポスターを破ったりすると、実際の選挙では犯罪(公職選挙法違反)になると注意してください。

(2)公職選挙法の遵守(特に第138条の3「人気投票の公表の禁止」)

(人気投票の公表の禁止)

第138条の3 何人も、選挙に関し、公職に就くべき者(衆議院比例代表選出議員の選挙にあつては政党その他の政治団体に係る公職に就くべき者又はその数、参議院比例代表選出議員の選挙にあつては政党その他の政治団体に係る公職に就くべき者又はその数若しくは公職に就くべき順位)を予想する人気投票の経過又は結果を公表してはならない。

※模擬選挙の投票結果を、実際の選挙結果が公表されるまで公表しなければ、公職選挙法に抵触しません。(2006年6月の埼玉県議会で確認済み)

※模擬選挙の開票・集計を事前に教職員が行なうのは問題ありませんが、その結果は、実際の選挙結果が公表されるまでは外部に口外しないでください。

未成年“模擬”選挙は、多くの方が応援しています

主な応援団の皆様

明橋 大二	真生会富山病院心療内科部長、スクールカウンセラー
今村 久美	NPO法人NPOカタリバ 代表理事
岩永 牧人	NPO法人ユースポート横濱 理事長
内田 豊	リンカーン・フォーラム 代表代行兼事務局長
奥地 圭子	東京シューレ 代表
加藤 秀樹	政策シンクタンク「構想日本」代表
工藤 啓	NPO法人「育て上げ」ネット 理事長
小玉 重夫	東京大学 教授
佐藤 大吾	NPO法人ドットジェイピー 理事長
田中 治彦	上智大学 教授
寺脇 研	映画評論家 元文部科学省審議官、元文化庁文化部長
遠山 正道	株式会社スマイルズ 代表取締役社長
原田 謙介	学生団体ivote 創設者
牧之内 隆久	財団法人明るい選挙推進協会 常務理事
山野 良一	「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク 共同代表
湯浅 誠	反貧困ネットワーク事務局長、元内閣府参与
横江 公美	PACIFIC 21 代表

※「応援団」の皆さまからのメッセージは、ウェブサイトで読むことができます

応援団からのメッセージ

加藤 秀樹さん：政策シンクタンク「構想日本」代表

政治は、政治家だけがするものではありません。

政治はまさに生活そのものなのです。

生活と政治を直結させて、それを小学校、中学校、高校から考えていくために、模擬選挙は最も有効な方法です。

大いに期待をしています。

山野良一さん：「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク共同代表

多くの子どもたちが貧困状況にあるのにもかかわらず、その存在自体が無視されつづけている現状では、子どもたちは無力におかれ続けたままです。

子どもたちにその不平等さを示し、彼らの声を聞くべきときです。
この国の将来を決めるのは彼らです。

模擬選挙推進ネットワーク

《概要》

学校の先生を含め全国で未成年模擬選挙を実施している人間で構成しているネットワーク組織。模擬選挙の普及活動のほか、10代のための永田町体感ツアー・政党本部探検など、未成年者に政治に興味・関心を持ってもらえるプログラムを提供している。

※模擬選挙推進ネットワークは特定の政党・宗教団体の影響下のない「公平・中立・公正」な組織です

《事業》

①市民性を育む場造り事業

・未成年模擬選挙：有権者ではない、未来の有権者である20歳未満が、実際の選挙にあわせて実際の立候補者・政党に対して投票する。実際の選挙結果との比較や、投票理由などを議員に届ける。

※模擬選挙に取り組む先生・地域向け「模擬選挙ハンドブック」 <http://www.mogisenkyo.net/handbook>
 模擬選挙資料(投票用紙・授業案・政策比較表・ワークシートなど) <http://www.mogisenkyo.net/tool/>

・生の政治に触れる：授業での学習、各政党マニフェストや新聞記事、10代による公開質問状、政治家と意見交換を行う「永田町ツアー」などを通して、社会のあり方について考え、議論する場を設ける。

②市民性教育のありかた調査研究事業

・国内外の市民性／民主主義教育の情報収集と研究会実施(2004年および2008年のアメリカ大統領選挙での模擬選挙の視察/アメリカでは約700万人が投票)

・主に中高生世代の社会意識や市民性のとらえかたを探る「10代の世論調査」の実施

《設立年月》

2006年12月設立(NPO法人Rightsが2002年2月から取り組んできた「未成年“模擬”選挙」の運営を、より「中立・公正」かつ戦略的に推進していく組織として発展・独立)

※模擬選挙を運営するためには、マニフェスト・ポスターの送料、政党訪問や打合せ時の交通費・通信費、印刷物のデザイン費・作成費、ウェブサイト維持費などが必要になります。運営に対する御寄附を頂戴できずと幸いです。

＜御寄附振込先＞三菱東京UFJ銀行 普通預金 高田馬場支店 2119738 模擬選挙推進ネットワーク